

ぎに表文あり、見れば神の讒言によりて、あやまたぬ行者をつみせらる、ことあたはぬよしあり、おどろきてこのよしを奏す、みかどをそれ給ひて、めしかへされぬ、その、ち役行者いかりをなして、護法をもちて此神をまばりて、唐へわたしにけり、これ金峯山の縁起に見えたり、此こ、ろをよめる也、

〔笈埃隨筆^七〕岩橋

和州篠峯にあり、この山は攝河泉の地より見れば、東のかた連山の中に、殊に二峯傑出す、南方葛城といふ、また金剛山ともいふ、その北方の山なり、

〔遊囊臆記^{十七}〕久米ハ岩橋ノ昔ヲ尋テ川流ニ臨ミ、精舎ニ入テ古仙ノコトヲ獨笑スルノミ、

〔夫木和歌抄^{二十一}〕ふるのたかはし 大和

〔和爾雅^{地下一}〕大和國山邊郡 布留高橋

〔名所方角抄^{大和}〕布留 高橋、石上寺より南也、聞ちかし、さくら、すみれ、尾花、五月雨などよめり、○
略

石上ふるの高橋たかけれどもえず成行五月雨の頃

〔大和志^二〕關梁 高橋在大安寺村、有古詠

〔古今和歌六帖^三〕はし

いそのかみふるの高橋たか／＼に妹が待らん夜ぞふけにける

〔古今和歌六帖標注^三〕契沖云、石上は山邊郡、高橋は添上郡なれど、どちかければ、いそのかみ

ふるの高橋とよめり、山科は宇治郡、石田は久世郡なれど、山科の石田ともいふが如し、

〔金槐和歌集^戀〕戀のうた

石の上ふるの高橋ふりぬとももつ人には戀やわたらん

布留高橋